

News Letter

1
教育

つなげよう未来へ

— 埼玉大学創立70周年記念事業 開催報告 —

Vol. **19**
May
2019

リベラルアーツ連続シンポジウムを開催

1月26日(土)

第1回 「音楽・メディア・インタラクショ

第1回は「音楽・メディア・インタラクショ



▲関西大学 小川博司 教授

1月27日(日)

第2回 「性の多様性」

第2回は「性の多様性」と題し、学内



▲東北学院大学 小宮友根 准教授

2月16日(土)

埼玉大学教育実践Forum2019 「明日を拓く学びのイノベーション～一人一人の児童生徒に応じた指導の改善～」を開催

埼玉大学教育学部では、2008年度から教育学部と附属学校との連携により附属学校フォーラムを開催しており、附属4校園における先進的な授業実践について広く県内外に情報発信してきました。そうした中、2016年度に設置された教職大学院が昨春第1期生を送り出しました。そこで教職大学院の教育研究、実践研究の成果を発信するために、附属学校フォーラムを発展させた、埼玉大学教育実践Forum2019を行いました。

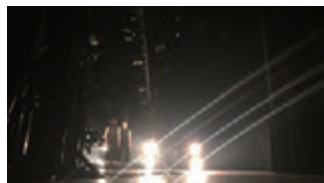


▲300名を超える方々に参加いただきました。

3月16日(土)

第18回埼玉大学ダンス部公演 「春の祭典 2019」を開催

彩の国さいたま芸術劇場大ホールにおいて、第18回埼玉大学ダンス部公演「春の祭典 2019」を開催しました。当日の観客は約690名にのぼり、埼玉大学創立70周年オフィシャルパートナーの企業の方、大学の教職員や学生、舞踊家、高校ダンス部指導者や部員など大変多くの方々が登場し、盛況裏のうちに終了しました。



▲舞台袖より



▲「春の祭典 2019」の一場面

埼玉大学創立70周年記念フラッグを掲げました

2019年11月3日に創立70周年を迎える埼玉大学。学内および大学前道路(埼玉大通り)に創立70周年記念フラッグを設置しました。このフラッグは、山口宏樹 学長が自らデザインしたもので、黄色ベースと紺色ベースの2つのカラーバリエーションを作成。埼玉大学に来校の際は是非ご注目ください。



▲学内ではためく創立70周年記念フラッグ▶

2 教育 科学技術の社会実装エコシステム拠点形成事業 シンポジウム「価値創造型人材の育成—産学共同による教育手法について—」を開催

Society 5.0の実現に向けて、新たな時代を担う工学分野における高度技術人材を育成するための文部科学省補助事業である「科学技術の社会実装教育エコシステム拠点形成事業」に、北海道大学・名古屋工業大学・金沢工業大学・埼玉大学の4大学が採択されており、その事業の一環として、3月18日(月)に政策研究大学院大学 想海樓ホールにてシンポジウム「価値創造型人材の育成—産学共同による教育手法について—」を開催しました。

本シンポジウムは、文部科学省高等教育局 専門教育課 小幡泰弘 課長の挨拶から始まり、日本電気株式会社の岡田勲 技術イノベーション戦略本部長による、「Society 5.0時代に必要の高度技術人材について—産業界が求める人材像」と題した基調講演のほか、各大学の取組報告として、現在までの事業進捗状況について発表されました。その後のパネルディスカッションでは、東京工業大学 岸本喜久雄 名誉教授をモデレーターに迎え、「Society 5.0時代の高度技術人材が持つべき資質や能力について」、「産学の望ましい連携の在り

方について」等をテーマにディスカッションを行いました。

当日は111名の様々な分野の方々に参加いただき、工学分野における高度技術人材育成に対する関心の高さがうかがえました。



▲文部科学省高等教育局
専門教育課 小幡泰弘 課長



▲日本電気株式会社
岡田勲 技術イノベーション
戦略本部長



▲東京工業大学
岸本喜久雄 名誉教授

3 教育 平成30年度大学院修了式・卒業式を挙 行 2,102名が社会へ巣立つ

3月20日(水)、平成30年度修了式を埼玉大学学生会館で挙行了しました。17ヶ国からの留学生77名、社会人学生28名を含む533人が晴れの日を迎え、多様な学生の集う埼玉大学ならではの修了式となりました。山口学長は学位記を手渡し、「専門家としての教養を育み、バランスの取れた『知のプロフェッショナル』として、これからの知識社会で大いに活躍されることを心から期待しています」と激励しました。

また、3月26日(火)、平成30年度卒業式を大宮ソニックシティ大ホールで行い、学部生1,569人がキャンパスを巣立ちました。山口学長は式辞で「埼玉大学において、それぞれに多様な学問、多様な人となりが、自身の時間軸に沿って歩みを進め、大きく成長し、埼玉大学の歴史をつなぎました。自信と誇りを持ち、これからも活躍してほしいと思います」と激励しました。



▲卒業式にて学位記を授与する山口学長

4 研究 大学院理工学研究科 吉川洋史 准教授が 丸文学術賞を受賞

大学院理工学研究科 吉川洋史 准教授が、一般財団法人 丸文財団 研究業績表彰「丸文学術賞」を受賞しました。

この賞は、我が国の大学、国公立研究所等の研究機関において、研究交流に基づき顕著な業績をあげつつある研究者を表彰するもので、平成30年度は吉川准教授の「レーザーによるタンパク質・細胞組織の秩序構造形成技術」が選ばれ、3月6日(水)に授賞式が執り行われました。



▲贈呈式にて
(前列左から三番目 吉川准教授)



▲スピーチする吉川准教授

5 国際 留学生が着物着付け体験会に参加—着付けや髪結いで華やかに— International Students of SU Joined “Kimono Try-on Session”

1月6日(日)、今年で9回目となるさいたま観光国際協会主催の着物着付け体験会に本学留学生9名が参加しました。

この体験会は、振り袖や袴の着付け、髪結いなど本格的な和装と初詣体験ができることから毎年留学生に人気のあるイベントです。大宮・氷川神社、氷川の杜文化館にて、着物をまとった留学生は、茶道、風呂敷包み、初詣などの日本文化を体験しました。参加者の男子学生は袴を、女子学生は着物の着付けに合わせた日本らしい髪結いを髪飾りやかんざしなどで華やかに彩ってもらい、その美しさに感動していました。



▲華やかな着物に身を包んだ留学生たち

6 国際 「スポーツは世界の共通言語」 本学学生が外務省の派遣事業で卓球を通じた国際交流を実施

外務省が推進する対日理解促進交流プログラム「JENESYS2018」ベトナム派遣(卓球交流)制度に、経済学部3年 四辻明大さんと工学部4年 福江啓太さんが応募した結果、採択され、卓球を通じて日本とベトナムの相互理解を深めました。

今回のプログラムは、対外発信力を有する人材を派遣して対日理解の促進を図ること、日本の外交姿勢や魅力等について参加者から積極的に発信してもらうことで対外発信を強化することを目的として、2018年11月12日(月)から20日(火)まで実施されました。

—四辻さんのレポートより抜粋—

ベトナムの卓球選手との国際交流を通して、「スポーツは世界の共通言語」

ということに改めて気付かされました。

また障がい者卓球クラブの方との交流やホームビジットでの貴重な体験など、有意義な時間を過ごしました。



▲卓球が盛んなハイノン省のジュニア選手と



▲ハノイの障がい者卓球クラブへ
ラバーを寄付しました

7 「地域における埼玉大学のこれから—地域とつながり、世界へ、未来へ—」 報道機関と埼玉大学との懇談会を開催

3月7日(木)、埼玉県政記者クラブに加盟している報道各社(12社)と「報道機関と埼玉大学との懇談会2019」を開催しました。第一部では、山口学長が「地域における埼玉大学のこれから—地域とつながり、世界へ、未来へ—」と題して、2019年に埼玉大学が創立70周年を迎えられることへの感謝を述べるとともに、本学の研究活動の現状や今後の新たな発展のための課題についてプレゼンテーションしました。

その後、報道各社と地域における埼玉大学の方向性に関して意見交換が行

われ、埼玉大学のブランディング、他大学との連携の必要性や、地域における産学協力による地域貢献などについて活発な議論が行われました。

プレゼンテーションを行う山口学長▶



8 学生がJR東日本大宮支社と地域活性化の課題に取り組む 「課題解決型インターンシップ」最終講義で提案発表

2月18日(月)、「課題解決型インターンシッププログラム」の最終講義がJR東日本大宮支社において開催され、山口学長並びに中村JR東日本大宮支社長をはじめとする多くの同支社社員に対し、学生たちが地域活性化に向けた課題解決につながる提案発表を行いました。この取り組みは、本学とJR東日本大宮支社が、埼玉大学周辺地域の魅力づくりや埼京線沿線の活性化、次世代の地域づくりを担う人材育成などに向けた連携による取り組みの一つです。

JR側から、埼京線の沿線活性化につながる課題として①埼京線の日中帯の

利用者満足度向上策、②県内食材を活用した埼玉のお土産づくりの2つが示され、講義履修者24名が4グループに分かれそれぞれが1つの課題を選択し、JR東日本大宮支社社員とともに取り組みました。



▶学生グループの提案発表の様子

9 平成30年度埼玉県課題解決型インターンシップ (課題解決型長期インターンシップ) 成果報告会を開催

3月4日(月)、今年度で3年目を迎えた埼玉県課題解決型インターンシップ(授業科目名:課題解決型長期インターンシップ)の成果報告会が大宮ソニックシティビルで開催され、参加学生、大学教職員、受入先企業関係者、埼玉県、埼玉県経営者協会など80名以上の方が参加しました。

報告会では、埼玉大学 山口学長、埼玉県産業労働部 新里英男 雇用労働局長の開会挨拶の後、実習に参加した学生がそれぞれ成果報告を行いました。

実習の課題は多岐にわたり、学生は長期インターンシップによりそれぞれ

の課題に挑戦し、改善案をまとめました。

また、各所属大学の指導担当教員からもコメントがあり、最後に本学基盤教育研究センター 石坂督規 教授が全体の総括を行い、埼玉経営者協会 上条正仁 会長の総評・挨拶をもって成果報告会は盛会のうちに終了しました。



▶報告した学生、所属大学教職員

10 「梶田隆章賞」を卒業式で授与 次世代の若手研究者育成を目指して

3月26日(火)、平成30年度卒業式において、第2回「埼玉大学梶田隆章賞」の授与式を開催しました。

梶田隆章賞は、1981年に理学部物理学科を卒業し、2015年ノーベル物理学賞を受賞した梶田隆章さんの栄誉を称え、同氏に続く次世代の若手研究者の育成推進を目的として2018年1月に設立されました。表彰は、本学を当該年度に卒業し、学業において優秀な成績を収めるとともに、特に高い研究者への志を有し、大学院修士課程または博士(前期)課程に進学する者1名

に行われます。

受賞した理学部の大和田凌太さんは「大学卒業後は埼玉大学の大学院に進学し、梶田先生の名に恥じぬよう、研究を進めていきたい」と感謝の気持ちと共に、意気込みを話しました。



▶山口学長よりクリスタル盾を授与される大和田さん
平成30年度卒業式にて

11 学生表彰式を実施 顕著な学修成果やスポーツ活動を称えて

3月11日(月)、平成30年度第2回学生表彰式を開催しました。

この表彰は、学術研究等の成果が優れている学生、課外活動の成果が特に顕著である学生、社会活動において優れた評価を受けた学生、その他表彰に値すると認められた学生を表彰する制度です。受賞者には山口学長から表彰状が授与され、学生後援会より記念品が贈呈されました。



▶個人表彰21名、団体表彰1団体が受賞しました

12 本学学生が日本代表として 第29回ユニバーシアード冬季競技大会に出場!

工学部応用化学科4年の菅原舞雪さんが、3月2日(土)～3月12日(火)に開催された、第29回ユニバーシアード冬季競技大会(ロシア・クラスノヤールスク)、女子カーリング競技において日本代表(男女各1チーム)に選ばれました。大会を終えた菅原さんからの報告によると、2勝7敗の7位という結果で大会を終え6位までが決勝トーナメント進出だったため、悔しい結果ではあったものの、それ以上に、日本代表として海外チームと対戦したことで、得るものがたくさんあったとのこと。また、運営に携わったスタッフやボランティアの方、支えてくださった方、応援してくださった方への感謝の言葉を述べていました。

チームメンバーと現地での通訳の方と一緒に▶(一番左:菅原さん)



13 教育 平成31年度入学式を挙行
 新生1,666人に向けた、上田清司 埼玉県知事による特別講演
 「夢は逃げない。道は近くにある。」を開催

4月8日(月)、大宮ソニックシティ大ホールにて平成31年度埼玉大学入学式を挙行し、1,666名の新生を埼玉大生として新たに迎えました。

入学式は二部構成で執り行われ、第一部は埼玉大学吹奏楽部が演奏するファンファーレで開幕。続いて山口学長が新生の入学を祝した上で、「埼玉大学には多様な先生や多様な学問と出会う環境があり、時間軸上、脈々と続いています。皆さんにはこの環境を活かし、自身の出会いを具体的なものとしてください」とエールを送りました。

続く第二部では、上田清司 埼玉県知事による特別講演が行われ、「夢は見ている限り逃げない、逃がすのは自分。逃しかかったときに友人が助けてくれる。その友人を大学で作れ、充実した生活を送ってください」と新生を激励しました。



「夢は逃げない。道は近くにある。」 上田清司 埼玉県知事が平成31年度埼玉大学入学式で特別講演

埼玉県は何もないと言われるがいろいろある。



はじめに、埼玉県の概要、観光地、話題など、埼玉県の魅力を十分に説明していただきました。

◀講演する上田知事
 最近の埼玉県には勢いがある!

- 人口増加率は東京都に次ぎ全国第2位
- GDP(国内総生産)の過去10年間の伸び率が全国実質第2位
- 企業本社が埼玉県に多く存在、過去10年間で743社増加
- 映画「翔んで埼玉」は今年邦画ベスト3に入る勢い
- 世界的なスポーツ大会やイベントに利用される
 埼玉スタジアム2002やさいたまスーパーアリーナは、東京オリンピックでもサッカーやバスケの会場になる。
- 民間博物館で来訪者全国第1位を誇る「鉄道博物館」
- 世界の盆栽の聖地である「盆栽村」
- 蔵造りの町並みで有名な「川越」
- 景勝地「長瀬」岩畳のライン下り
- アニメの聖地「秩父」(「あの花」「ここさけ」は秩父市が舞台設定モデル)
- 映画「のぼうの城」やテレビドラマ「陸王」の舞台となった行田市 など

魚の目、鳥の目、本質を見抜く力を身につけよう。

「魚の目」のように潮の流れを読む、つまり時代や市場の流れを読んだり、「鳥の目」のように上から物事の全体像を把握する大切さについて語られました。

「魚の目」の説明では「日本や海外主要国におけるGDPの変化」や「女性就労率が国家債務に強く影響する」例を挙げられ、「鳥の目」の説明では「トヨタ時価総額」の理解や埼玉県内における「高校中退率」「中学生の不登校者」「凶悪犯の認知件数」の改善に利用されたことが紹介されました。

また、「物事の本質を見抜く力」も大切であることにも触れられ、長年の懸案であった県内公営競技施設(競馬など)における赤字運営問題について、関係者に「本質」である公営競技施設の目的「本来賭博罪に該当する公営競技が特別法の規定によって存在を許されている理由は、国や地方自治体に財政的貢献をすることにあること」を再認識させ、現在、赤字運営に転じている事例が紹介されました。

夢は逃げない。道は近くにある。

最後に、新生へ「将来の夢に向かう最中に失敗しても、友人がいれば夢は逃げない。逃すのは自分ですが、自分が逃しかかった時に友人が助けてくれる。従って道は近くにある。その友人を大学で作れ充実した生活を送ってください」と激励しました。

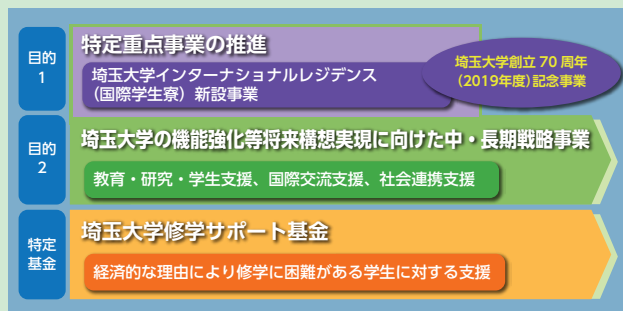
[訂正とお詫び] NewsLetter 18号、6.研究「3名の教員に学長奨励賞を授与 研究活動に顕著な功績」において、名前に誤りがありました。川本建 教授ではなく川本健 教授の誤りでした。訂正してお詫び申し上げます。

埼玉大学基金室より 埼玉大学基金のご案内

埼玉大学基金は平成25年11月の設立以来、皆さまからのご理解とあたたかいご支援をいただいております。平成28年には、経済的な理由により修学に困難がある学生に対する支援を行うことを目的とした、特定基金「埼玉大学修学サポート基金」を設立し、下図のとおり構成となっております。ご寄附の方法として、金融機関からの振込・払込のほか、指定の月に決済が行われる継続寄附も可能なクレジットカード決済をご用意しております。また、不要となった本やDVDをお送りいただくことで、その査定額をご寄附いただける古本募金「きしゃぼん」を導入しております。詳細は下記ホームページをご覧くださいませようお願いいたします。今後とも埼玉大学基金へのご理解とご支援をいただけますよう、心よりお願い申し上げます。

◆埼玉大学基金のご報告

平成31年3月末の状況 **369,486,434円**
 うち古本募金「きしゃぼん」によるご寄附 **697,050円**



埼玉大学基金室 (広報渉外室内) ☎048(858)9330 ✉s-kikin@gr.saitama-u.ac.jp 🌐http://www.saitama-u.ac.jp/funds/
 古本募金「きしゃぼん」についてはホームページの「お申し込み方法」(http://www.saitama-u.ac.jp/funds/pay/) の「3.古本募金」からもご覧いただけます。

